
一晩で終わる聖杯戦争

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一晩で終わる聖杯戦争

【Nコード】

N3805T

【作者名】

ゆう

【あらすじ】

「好きな能力を3つやるから、聖杯戦争に勝って来い」

そう言われた一般人が3つの能力を貰い、サーヴァントとして召喚されるのですが……。なんと彼は、たった一晩で聖杯戦争を終わらせてしまったのです。

「好きな能力を3つやるから、聖杯戦争に勝って来い」

死んだら神様にそう言われました。

あなたならどうしますか？

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
○ F a t e / o n e n i g h t ○
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

「嫌です」

僕ならもちろん断ります。

いや、だってそうでしょう？

型月の世界って危険すぎるし、中でも聖杯戦争なんてもっと危険だ

し。

大体、誰が好き好んで殺し合いをしたがるのでしょうか。

僕はそう思うのです。

「却下。お前が参加するのは決定している」

まあ、そうですね。

いつだって現実には理不尽に満ちているものです。

はあ…。

仕方ないから真面目に欲しい能力を言いますか。

神様がくれる3つの能力。

あなたなら何を望みますか？

……。

え？

僕ですか？

それは、もちろん……

「何でもできる能力を下さい。もちろん条件や制限や代償は無しで」

「却下」

「えー……好きな能力をくれると言ったじゃないですかー……」

「そんな能力があるなら俺も欲しい」

自分が持っていない物は与えられない。

神様でも同じだなんて、世知辛い世の中です。

「なら神様は何を持っているのですか？」

「面倒な手順と長い時間という代償で具体的な何かを与える能力」

「つまり、具体的な物でも能力でも人でも良いんですね？」

「人はダメ」

「それなら人以外という条件で、物でも能力でも何でも創れる能力です。もちろん他の条件や制限や代償は無しで」

「それも無理だ」

「……………」

「ちがあきません。」

そこで、とりあえずこの神様が与えられる能力の範囲を教えて貰うことにしました。

こんな感じです。

一、商業作品に元ネタがある道具や能力ならOK。

一、能力値の書き換えにあたるお願いならOK。

一、情報の提供にあたるお願いでもOK。

つ、使えませんか。

僕には条件が厳しいと思うのですが、あなただったらどうしますか？

ちょっと考えてみててください。

その間に僕も、ちょっと考え直してみますから。

.....。

10分後。

ようやく考えがまとまった僕は、神様に欲しい能力を言いました。

まずは1つ目です。

「コードフリーク的能力を下さい」

「な、なんだそりゃ？」

「簡単に言えば、能力値などのステータスを”無条件”に改造する”商業作品”です」

「か、考えたな...」

上限値という制限があるのはネックなんですけどね。

それでも、これがあると無いとでは随分違うはずですよ。

そして次は2つ目です。

「2つ目は欲しい情報が欲しい時に手に入るようにしてください」

「ん？ それくらいなら構わん」

で、最後の3つ目は……。

「これが欲しいんですけど……人以外にも適用できるようになりませんか？」

「な、なんとっ！ それで2つ目が情報だったのか！」

「できますか？ できませんか？」

「英霊は大丈夫だ。だが心を持たない物は無理だ」

「はぁ……。仕方ないですね。それで我慢します」

え？

3つ目は何かですって？

それは後で使うときに明かしますよ。

「よし、それでは聖杯戦争に行ってもらおうぞ」

「ま、待ってください！ 能力をくれないつもりですか！」

「慌てるな、送る時に与える」

こうして一般人のはずの僕は、聖杯戦争に参加することになってしまったのでした。

体に力がわいてくるのと同時に浮遊感。

足元が抜ける瞬間、僕は急いで自分の全ての能力値をMAXにしました。

.....。

ズ、ガガガッガガ！ ドッガラシャーンッ！！！！

自分の体が何か固いものを突き破り、着地したのがわかりました。

目の前には夜空と瓦礫。

そして辺り一面を覆いつくす埃^{ほこり}でした。

「まったく……この召喚は遠坂凜でしょうか？」

思うとその通りだと情報が入りました。

手元には3つ目として神様に頼んだ道具。

なるほど確かに能力はちゃんと与えられているようでした。

その時…。

「扉、壊れてる!？」

取っ手をガチャガチャ回す音が聞こえました。

ドアの前に机やらが何やらがあるから当然です。

おそらく僕の召喚による衝撃であなっただけでしょう。

凜に令呪とか使われるのも面倒ですから、僕はコードフリークの能

力で”受肉”してすぐに殺しました。

「ガハッ」

念のために首を切断して、脳と令呪の繋がりを断ち切ります。

そして数秒後には、遠坂凜は絶命しました。

「ぐっ…うえっ」

自分でやったことながら、これはえぐいです。

でも自分の安全のためですから、後悔はしません。

これで第一関門は突破できたのですから。

.....。

第二関門は他の全てのマスターとサーヴァントを殺すことです。

これには神様に貰った3つ目を使います。

私は部屋から適当なペンを取り、手元の”デスノート”を開きました。

そうです。

私が望んだ3つ目はデスノートなのです。

そしてすぐに、この聖杯戦争の関係者全ての名前を書き込みました。

マスターやサーヴァントではありません。

間桐臓硯や協会、教会の人間も含めてです。

ついでに吸血鬼とか魔法使い、有力な魔術師なども一緒に書いておきました。

そして40秒待ちます。

あと20秒。

19、18、17……

あと10秒。

9、8、7、6、

あと5秒、

4、

3、

2、

そして…！

ゼロ。

瞬間、書き込んだ全ての奴らが死んだと情報が入ってきました。

最後まで生きていたのはバーサーカーのみ。

えーと…英雄ヘラクレスですね。

あと11の命があるので生きながらえているんですね。

同じ複数とはいっても、間桐臓硯は憑依して虫を操っているだけでした。

操っている本人の命は一つしかないらしく、デスノートで事足りたというわけです。

他にも何らかの方法で生き長らえた奴は居ましたが、生き返るたびに同じ名前を書いていったら、最終的には絶命しました。

やはり一度殺されたのと同じ方法では死なくなるヘラクレスは凄いです。

というわけで、第2段階が終了しました。

.....。

第3段階は、ヘラクレスが存在を維持できなくなるまで待つことです。

予想以上に早かったです。

相当に燃費が悪かったようです。

最終段階では、聖杯のステータスを書き換えて穢れを浄化。

2度と聖杯が機能しないように願い、正常な形で叶えてもらいました。

これで聖杯戦争は終了です。

あとは他の魔術師とかも、有力な順に名前を書いていきました。

.....。

そして数カ月後。

もう魔術師はいなくなり、これで一安心となったのです。

「はぁぁーっっっ.....疲れましたぁ.....」

僕はようやく腰を落ち着けて、デスノートゲート・オブ・バビロンに仕舞いました。

え？

何で僕がゲート・オブ・バビロンを使えるのかですか？

コードフリーク的能力で僕の宝具に設定できたんですよ。

もちろん他の宝具も設定できましたから誰の宝具でも使い放題です。

ですが……。

使う相手がいないですから、あまり使うこともないでしょう。

……。

何にしても、これで平穏な人生が楽しめます。

存分に楽しみましょう、と。

そう、決意しました。

と、いうわけでした…。

僕の人生の第二幕。

はじまり、はじまり。

一晩で終わる聖杯戦争 完。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3805t/>

一晩で終わる聖杯戦争

2011年6月15日12時12分発行